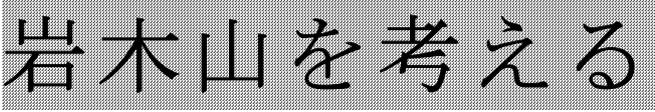


会報 第73号	Mt. Iwaki Conservation Association 	2017年9月29日発行 岩木山を考える会 会長 小堀英憲
----------------	--	-------------------------------------

< 今後の予定 >

第4回岩木山講座

「後長根沢の砂防堰堤の観察会」のご案内

2013年9月中旬(15～16日)、台風18号が東北地方に来襲。各地で大きな被害がありました。同年9月18日、当会幹事会は岩木山の避難小屋の調査を行いました。その時、岩木山神社バス停近くから後長根沢崩落を目の当たりにしました。その後、津軽森林管理署は、同沢に「治山事業」として3基の堰堤を建設。2015年の当会の調査では、一番上の堰堤上部に巨岩がゴロゴロしており今後どうなるかと懸念しておりました。岩木山には多くの堰堤があります。普段は中々訪れることのない岩木山の領域でもあります。

今回、皆様とご一緒に観察会を持ち、自然のこと、堰堤のことについて学び考えたいと思います。百沢スキー場駐車場に集合後、車での移動が少しあります。秋の草花や、花の実の観察も出来ると思います。

日時： 10月15日(日)10～12時

集合場所： 百沢スキー場駐車場に10時までに集合

持ち物等： 簡単な山歩きが出来る服装(長袖、長ズボン、帽子、軍手など、長靴など、雨具)飲み物

参加費： 百円(保険料)

申込： 藤原 裕貴子 ☎ 33-5360

申込締切： 10月12日(木)

< 活動報告 >

第1回岩木山講座

志賀坊観察会～スプリングエフェメラルの山野を訪ねよう～

4月30日(日)、志賀坊森林公園で今年度第1回岩木山講座「スプリングエフェメラルの山野を訪ねよう」をウォッチング青森定例観察会と合同で開催しました。昨年秋の観察会に次いで、志賀坊では2度目の観察会です。カタクリ、キクザキイチリンソウ、ナニワズが花盛りで、スマレ、ミズバショウも咲き始めていました。カタクリの白花やホウが2枚のミズバショウなど、ぼんやり歩いていると気づかないことをいろいろ教えていただいた他にも、フキノトウの雄花・雌花の見分け方やニリンソウとトリカブトのことなど話題が尽きず、予定のコースを3時間近くかけてゆっくり散

策しました。

当日は、「志賀坊山野草祭り」とかさなり、天候に恵まれたこともあって、予定していたふれあい館の屋根付スペースを利用できなかったため、散策後はあずまや周辺で、阿部先生のレクチャーを伺って、残念ながら昼食は取らずに解散となりました。今回は、現地での飛び込みも含めて27名と大勢の参加でしたが、合同開催のため植物に詳しい方が多く、長い列のどこにいても野草観察を堪能でき、楽しい一日を過ごしていただけたようです。 武尾 照子 記



参加者感想

「志賀坊観察会」

娘と二人で志賀坊祭りに来て、駐車場に車を止めて、岩木山を見てホッと、二時間ゆっくりと歩いて春の花（カタクリ、ミズバショウ、エンレイソウ、ユキザサ、フッキソウ・・・）とか、木を見ていました。

4月末なのに残雪がありびっくりしたが、きれいな新緑でした。花に興味のない娘が、私がキャーキャーさわいでいるのを後ろから笑ってついてきます。花から元気もらえます。そのために、おおぜいの人達が大切な自然を守っているんだと思います。本当にごくろうさまです。



花を愛する友達三人と一緒に今日参加しました。感動、感動・・・・・・・・でした。幸せな日を過ごすことができありがとうございました。また、機会があれば、このメンバーで参加したいと思います。 青森市：鳴海 桂子 様

第2回岩木山講座（弘前市と共催）弥生跡地観察会

7月2日 竹谷清光さんリーダー

参加者 一般27名（内子供12名）、岩木山を考える会・弘前市関係合わせて41名

1班：竹谷さん班、2班：松本さん・石戸谷さん班に分かれ憩いの広場の上から出発した。ヤマナメクジの発見で子供たちが大騒ぎ、ニホンザリガニの谷では最高潮となった。全員がザリガニを手にとり、そして又谷川へ返し





た。ザリガニから先の観察道はかなりきつく、ロープが張られてある。子供たちは低学年の子供もいたがいたって元気。一番高所まで一気に登った。

この一番高いところの少し前には熊のウンチがあるのだが気が付かない。もっとも小熊の落とし物だから小さいこともあって目立たない。結局竹谷さんが「これなんだ？」とはじまり、これまた大騒ぎ。

ワラビとりをしたり、今年は発生が少なく見つからなかったクスサンの蛹は今年の抜け殻を

土から掘り起こした子がいたし、ゴマダラオトシブミの葉を巻いたのやヤナギの根を食い尽くしているテッポウムシ(イタヤカミキリの幼虫)などを観察した。

さすがの竹谷先生も子供たちのバイタリティに度肝を抜かれたようである。私(阿部)は久しぶりに子供の声を聞きそれだけで大変楽しい1日でした。ご苦労さんはお昼の準備をしてくださった土岐峯子さん。豚汁の具を急遽増やしたり大活躍。豚汁は格別おいしくいただきごちそうさまでした。

阿部 東 記

「ゴマシジミ生息地の刈払い」と

第3回岩木山講座「ゴマシジミ観察会」

6月27日、ゴマシジミ生息地の刈払いを実施しました。当日は各位の日程の都合で実行は小生1名でしたがススキ、ヨシ、雑草、若木等を刈払いました。作業前(10時前)と8分実施時(昼前)の二度程小堀さんが顔を見せました。小生も一応正午で作業終了としました。

そして8月20日、阿部先生を中心として「ゴマシジミ観察会」の実施となりました。当日は好天で参加者は3人と少数ではありましたが、阿部先生の説明・内容に対して非常に興味を持たれているようでした。(例えば同じ本県内のゴマシジミでも紋様がそれぞれ生息域によって異なる、等々)

小生自身も3度程ゴマシジミの飛翔を目にしました。参加人数こそ少数でしたが講習者、受講者とも内容のある観察会であったと思った次第です。

ここで一つ小生が思ったのは、刈払いはもっと遅い時期とした方がよいのでは…と思った次第です。6月27日の刈払いは比較的広範囲を刈ったつもりでしたが、8月20日当日は刈払い後の再生繁茂が物凄く6月27日には何も生えていなかった区域にもススキが広範囲に繁茂していましたので刈払いはもっと遅く実施した方がよいのでは…~~と思った次第です~~。耐暑に自信のある方限定とはなるでしょうが。そうなれば小生もそれなりに頑張るつもりではありますが。

斉藤真人 記

「第38回東北自然保護の集い」に参加

9月2日・3日、秋田県内陸部の「マタギの里打当(うつとう)温泉」で開催された(各県が時計回り順で担当)の「東北自然保護の集い」に参加してきました。本県からの参加者は「阿部先生夫妻、藤原さん夫妻、亀山さん、そして私」の計6名でいずれも本会会員でした。

2日午後からの開催で「講演と各報告」があり講演内容としては

I:「秋田県でのツキノワグマの経年の数量の変化と現状」

II:「シカ増加による被害の現状とそのためのオオカミ導入の提言」

の要旨で、Iは「秋田市の小松武志氏」の講演でしたが100頭単位ぐらいの増減変動はあるようですが「急減していく」ということではないようです。

IIは「大台ヶ原」等西日本でのシカによる深刻な被害状況の紹介、そしてそのためにオオカミを導入する考えの提言(奈良県・大槻国彦氏)等で「米国とドイツの例」の紹介がありました。米国の場合は「イエローストーンでのオオカミの再放獣による生態系の復活」又ドイツの場合はオオカミの駆除を止めて人とオオカミを「区域と時間帯」の住み分けとし、家畜に対しては



「オオカミも敵わない大型強力ガードドッグで守らせる」等の対策をとっているようです。

米国もドイツも現状では一応成功例かも知れませんが将来どうなるかの展望も必要でしょう。

また、小生個人が印象に残ったエピソードを2つ。

一つは昔北海道にはエゾオオカミが生息したが同時代(江戸時代?)のヒグマは現状よりはるかに「肉食度が強かった」とのこと。理由はオオカミが仕留めた獲物をヒグマが横取りして食べていたからとのことでした。その後オオカミが絶滅したために適応性の高いヒグマ(クマ類)は「植物中心への食性」へと変えたとのことでした。(これは炭素同位体の調査とかでわかるとのこと。)

もう一つは「弘前藩の記録」で狩猟文化を担った「マタギ(和人)」の他もう一方の狩猟文化の伝承者(あるいはもう一方の日本文化の伝承者?)として「本州アイヌ・津軽アイヌ」といわれた伝統継承者の存在でした。これは歴史オタクにとっては知る人ぞ知ることらしいです。等々

さて、「シカ被害に対してのオオカミ放獣の件」ですが、小生の見解としては余程のシカ被害の緊急度、深刻度でない限り

①明治期のオオカミ絶滅から100余年後の今日のシカ急増はオオカミ絶滅だけが原因なのか、他の理由がなかったのかの入念検討

②米国、ドイツの例も入念検討(将来展望も含めた長所、短所)

③オオカミ導入を方針としたとしても「かなりの厳重管理とした特区」でのテストと実証

等々が必要なのではと思われ、その「メリット・デメリット」を出し尽くすだけ出した上での入念検

討、検証を経た上での賛否を決めるべきだとは思いますが…。

当日の講演・報告の中で「全国自然保護連合(事務局・千葉県)」の存在とその「エネルギーで熱のある報告」に目と耳を打たれました。そして夕食交流会で小生の隣席だった東北旅行中の兵庫・西宮市の夫妻との会話も好印象でした。~~等々。~~

齊藤 真人 記

各地からの報告が7題ありました。 (藤原 裕貴子)

◎報告1「福島県内の諸問題」野生動物6種類のこの6年間の汚染(被曝)の変化が示されました。再生可能エネルギー開発について、希少猛禽類の生息確認があり、そのためにも慎重な対応が求められている、と。

◎報告2「最上小国川のダム建設差し止め住民訴訟」です。

◎報告3「全国自然保護連合の活動」鎌倉、東京湾奥部の干潟・浅瀬を守った運動他。自然観察会などで自然の豊かさを体験してもらうなど、色々工夫して自然を守る取り組みが示されました。

◎報告4「秋田県 馬場野目川上流部のブナ植樹活動 25年」「ブナを植える会」は、地域の水源である八郎潟の水環境を守ることを目的としている。20年以上前の第1植栽地は立派なブナの森となっている、と。

◎報告5「宮城県放射性指定廃棄物問題」放射性廃棄物を焼却することは決して安全ではなく、決してそれは消えない、と。

◎報告6「岩手の動物事情」・・・どうすればいいのか・・・キーワードは「共存・共生」配慮例として、「犬の解放区」 (機会がありましたらお伝えしたい内容です 藤原)

◎報告7「津軽地方で会員(阿部)が記録した野生動物の轢死体(2017)」今年4~7月の間に17日間で発表者が遭遇した9種、22体の轢死体について。各県毎に、自然保護条例の制定を目指すことの提起。

本集いの今後へ向けての「アピール」(案)の提起と討議をして、事務局がまとめて、各地の団体に届けることになりました。

その後、次期開催県(青森)の挨拶をして、当会が「東北自然保護の集い」の横断幕を受け取りました。来年は、青森県が開催県です。関係する団体等に働きかけて、取り組みを進めたいと思います。

先日、秋田県事務局から、アピール文が届いたので報告をします。

アピール

9月2日から3日にかけて、北秋田市阿仁町のマタギの里で、第38回東北自然保護の集いを開きました。今年のテーマは「野生動物との共生を考える」としました。日本人は縄文の昔から野生動物と共生し、生存するあらゆる動植物に生かされて来ました。しかし明治維新以来

日本社会は急変し、特に 1945 年以後はまったく別の国になったといわれるほどです。人口の都市への爆発的集中、第 1 次産業切り捨て政策による地方の過疎化の激進、食生活は「米と魚」から「パンと肉」へ変わったという統計も出ました。世界でも稀な現象です。日本の山や森、海のかつての豊かさは、まさに逝きし世の面影と化しつつあります。ダム乱造のため水循環を断たれた河川、拡大造林政策やリゾートブーム等で乱伐されたブナ林等の奥山、森林生態系の頂点捕食者オオカミの人間による絶滅などのツケが一举に顕在化してきています。ニホンジカやイノシシの激増は、山や森の崩壊を加速させ、農林業を放棄させる原因ともなっています。ツキノワグマの人間の生活圏への日常的な出没は、正常な社会生活とは両立できません。自然は、人間はもちろん、生きとし生けるものすべての等しく共生できる唯一の空間です。2 日間の話し合いを通じて東北にも数多くの自然保護問題があることを学び、かつ野生動物について、我々がいかに知らないことが多いか教えられました。これらの問題の解決には人間の側がこれまでの施策を反省し、正しい施策へ変更することが不可欠だと痛感しました。「天国などいない、故郷がほしい」は、ロシアの詩人の言葉ですが、人間も野生動物も安心して生活できる故郷の再生こそ急務だと思います。

我々は次のことをアピールします。

- 1 野生動物と人間の共生には、豊かな生態系が必要です。彼らの生活空間である健全な山や森を再生しましょう。
- 2 ニホンジカやイノシシなどの激増を抑えるためには、人間の力はもちろんですが自然界の持つ力こそより重要です。絶滅させてしまったオオカミの復活も選択肢の一つとして論議を深めましょう。
- 3 日本の河川にダムはもう要りません。ダムのため生きた水の流れていない河川をなくしましょう。
- 4 電力の7割を原発に依存してきたフランスも脱原発に動き始めました。日本は即脱原発に進むべきです。帰りたくても帰れない故郷を、子供たちに残すことはできません。

2017 年 9 月 3 日

第 38 回東北自然保護の集いマタギの里集会参加者一同

嶽地域の地熱発電について

去る、6月5日、常盤野のさわやかホールで嶽地域地熱発電の説明会があり参加しました。今回の説明会は、前回試掘した嶽温泉南東部の地熱温度が低かったため、次の有力候補地として北西部のスカイライン東側付近に変更する為行われたもので、現在掘削調査とモニタリング調査の最中です。又、10月から作業地の準備、造成というスケジュールになっていますが過去2度失敗していることもあり推移を見守りたいと思います。

小堀英憲 記

赤倉登山道 26 番観音付近は気をつけて

引き続き 26 番観音付近の登山道下の崖の崩壊が続いているとの報告がされています。弘前市では、付近に黄色のテープを張って注意喚起をしています。付近を通り過ぎるときは、足元で崩壊する音が聞こえないかどうか耳を澄ましなが、速やかに通り過ぎるようにしてください。現在、岩木山環境保全協議会で、う回路の設置について意見交換をしているところです。

竹浪 純 記

8 月 2 日に岩木山環境保全協議会総会が開かれました。

総会では、2016 年度の活動報告、決算、2017 年度の活動方針と予算が決まりました。昨年度の事業報告の主なものとしては、岩木山エコプロジェクト(登山道のゴミ拾い活動 7/10,10/2)への参加。おやま参詣山頂警備、避難小屋トイレへの EM 活性化液投入、入山届ポストの設置、弥生登山道新道入口誘導看板設置、嶽登山道整備のための現地確認、などです。

議案終了後、当会から、いくつか提案・意見を述べ議論をしました。主なものは次の通りです。

- 1) 嶽登山道入口に設置した入山ポストが、去年、雪の下に埋まってしまったことについて、場所の変更について地元町会の皆さんと調整することになりました。ポスト備え付けの計画用紙は、英文のものも作成することになりました。
- 2) 岩木山頂にハエが飛び回っているのは、改善しなければならないということで、お山参詣時に携帯トイレを推奨することの検討を 1 年かけて行うことになりました。
- 3) 冬になるとスノーモービルが山頂付近まで登っていくことがあります。8合目以上は特別保護地区となっており、これは違法走行となります。お山を守るために、厳しく取り締まりをしていくことになりました。
- 4) 気象庁が予期しない火山の爆発に備えて、去年山体に設置した地震計と傾斜計のうち、焼止避難小屋付近に設置した傾斜計が、雪のために一冬で破損してしまいました。地元の意見を無視して設置した結果でしょう。もったいないことです。今後そのような相談があった場合は、協議会としてきちんと対応することになりました。
- 5) 岩木山環境保全協議会の会員団体に、新たに「弘前勤労者山岳会」を加えてほしいと、当会から提案しました。ひょっとすれば一番岩木山を利用し、知見を持った団体かもしれません。実際に利用している方々から意見や提案など協力を得ることが大事だと考えたからです。協議の結果、基本了承され、当面はオブザーバー参加で、来年の総会時に正式に議案として提案することになりました。

竹浪 純 記

8月30日、環境保全協議会で弥生登山道の整備調査をしました。

市観光政策課、森林管理署、県自然保護課、岩木山観光協会など、総勢 12 名で弥生登山道整備の調査活動を行いました。当会からは阿部と竹浪の2名が参加。マイクロバスでスカイラインを8合目まで登り、リフトで9合目、そこから歩いて頂上まで行きました。その後、弥生登山道を下りながら、整備が必要なところをチェックしました。

9合目から上、8合目から9合目の間、6合目から8合目まで、この辺が笹が茂り足元が見えないなど整備が必要だ、ということで認識を共有。8合目から上は登山道が崩れているところもあり、径の付け替えも含めて検討をすることになりました。岩木山登山が安全に行えるように、徐々に取り組みが進んできています。

竹浪 純 記

幹事募集 と 幹事会への 参加呼びかけ

 岩木山を考える会の企画・運営に参加していただける方を募集しています。まずは、毎月第一火曜日(5月は第二火曜日)に開催している幹事会に顔を出してみませんか?日頃、岩木山についてお気づきのことや考えていることなどざっくばらんにお聞かせください。桜大通り、市民参画センターで午後6時～。

※編集後記

昨年熊に襲われ大ダメージを受けた我が家のミツバチでしたが今年に入って見事に復活。個体数を増やしようとう分蜂までしてくれました。分蜂した群れは捕まえて友人のところへあげました。ところが、その後初めての採蜜を行った後、徐々に個体数が減っていき8月の半ばには全滅となってしまいました。恐らく途中で女王蜂に何かあったのだらうと思います。折角復活してくれたのに残念です。養蜂家への道はまた振り出しに戻ってしまいました。

また、我が家のネコ達にも変化が。子猫が4匹生まれました。一匹は生まれた時からおっぱいを全く飲めず弱って死んでしまいました。残りの三匹のうち二匹は友人の野菜農家にネズミから野菜を守るための傭兵として貰われていきました。残る子猫は一匹となったのですが、不思議なことにその貰われた数日後にどこからともなく同じ月齢ぐらいの子猫が我が家に迷い込んできたのです。しかも母猫は自分の子供でもないのにおっぱいを飲ませ、父猫は母猫が狩りでいない間一緒に寝たり体を舐めたりお世話をして今ではまるではじめから家族だったように仲がいいのです。動物の世界でも血の繋がりが全てというわけではないんですね。人間も見習うべきところがありそうです。

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第73号(2017年9月29日)発行/岩木山を考える会

会長 小堀英憲 〒036-8131青森県弘前市千年4-12-15/電話0172-87-1910

事務局長 竹浪 純/電話070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会